

船橋市における摂食嚥下の取り組み

Approach for feeding and swallowing functions in Funabashi City

田代晴基^{1,2,3)} 齋藤俊夫¹⁾ 赤岩けさこ¹⁾ 加藤寿美⁴⁾ 小沢俊輔⁵⁾ 田村文誉^{3,6)} 菊谷 武^{3,6)}

- 1) 公益社団法人 船橋歯科医師会
- 2) 船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所
- 3) 日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科
- 4) 船橋市栄養士会
- 5) 医療法人社団 輝生会 船橋市立リハビリテーション病院
- 6) 日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック



COI開示

筆頭発表者名：田代晴基

演題発表内容に関連し、発表者に開示すべき
COI関係にある企業等はありません。

【目的】

演者らは、「口から食べることを支援し、人としての尊厳を守り、豊かな人生を過ごしてもらおう」ことをテーマに、地域リハビリテーション拠点事業として摂食栄養サポート勉強会を開催している。

歯科医師会、栄養士会、介護支援専門員協議会、市立リハビリテーション病院言語聴覚士の協力により、令和5年に第20回を迎え、現在第21回目の準備中である。過去の振り返りとともにここに報告する。

地域リハビリテーション拠点事業とは

市民、医療や介護・福祉・生活に関わる 団体・組織、行政の協力のもと、市民が住みなれた地域で生き生きとした生活を続けられるようリハビリテーションの立場から支援すること。

【発足の目的】

口から食べることを支援し、人としての尊厳を守り、
豊かな人生を過ごしてもらう

【発足の経緯】

2012（H24）年 歯科医師会、栄養士会、市内リハ病院等と連携の必要性について共有

2014（H26）年 地域リハ拠点事業として実施

現在は、歯科医師会、栄養士会、介護支援専門員協議会、市立リハビリテーション病院とで開催。

【地域リハ推進事業の沿革】

- 2007（H19）年 「船橋市地域リハビリテーション協議会」の設置
- 2010（H22）年 「船橋市地域リハ研究会」が「船橋市地域リハビリテーション協議会」の活動を補完
- 2013（H25）年 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」発足
- 2014（H26）年 船橋市リハビリセンターが地域リハビリテーションの推進拠点と位置づけられ、地域リハビリテーション拠点事業を担う
- 2016（H28）年 「船橋市地域リハ研究会」は「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」の委員会のひとつ「地域リハ推進委員会」として地域リハ支援事業に協力

【これまでの勉強会の内容】

- 第1回 各職種の摂食嚥下機能障害との関りについて
- 第2回 事例検討「生活（維持）期の摂食嚥下障害患者の方針検討」
- 第3回 講演「小児の摂食嚥下障害とその支援」
- 第4～6回 事例検討「食べられないをどこから考える？」 アセスメントシート作成と使用
- 第7回 事例検討「食事はとれていたはずなのに…」 アセスメントシートver.2に更新
- 第8回 事例検討「なぜ食べてくれないの？」 アセスメントシートver.2使用
- 第9回 事例検討「痩せちゃった…どうしよう？」
 - +ミニレクチャー「体重変化で分かること」
- 第10回 事例検討「飲み込みのメカニズム
 - ～なぜとろみをつけるのか、なぜ姿勢を倒すのか～
 - +濃度の異なるとろみ水分の試飲

【これまでの勉強会の内容】

- 第11回 事例検討「太っちゃった、どうしよう？」
+ミニレクチャー「基礎代謝を高める座りながらの運動！」
- 第12回 調理実習「家でできる嚥下食の工夫～コンビニ弁当が嚥下食に～」
- 第13回 講演「噛めてる？飲み込めている？～何かおかしいなを解決するには～」
- 第14回 調理実習「軟菜食とは～酵素を用いた調理法～」
+ミニレクチャー「飲み込む前にしなきゃいけないこと」
- 第15回 WEB講演「食事の認知ができない人への関わり方」
- 第16回 WEB講演「摂食栄養サポート勉強会のこれまでの取り組み」
+現場でのお困りごと相談会
- 第17回 WEB講演「その食べ方で大丈夫？食事の姿勢調整と介助方法」
- 第18回 WEB講演「防ごう誤嚥！～摂食嚥下障害の知識と嚥下食の作り方～」
- 第19回 WEBシンポジウム「各職種からみた低栄養」+嚥下調整食調理の紹介
- 第20回 WEBシンポジウム「食べることに関わる多職種を知ろう」
- 第21回 WEBシンポジウム「いつまでも食べ続けられるために」
(令和6年2月22日(木)18:30～開催)

アセスメントシートの作成



ケアマネジャーとして利用者の自宅訪問の際に、少しやせた様子あり。夫にそのことを伝えると、「食べないんだよ」と発言があった。

グループに分かれてKJ法を応用し、情報収集のためのアイデアをより多く抽出、グループ化しその関係性を図解化、項目を検討した。さらに各グループの結果を収集し、938項目を分類、アセスメントシートを作成した。

作成したアセスメントシートを用いて事例検討会を開催し、内容の更新を行いVer.2として使用している。

確認項目		問診する際の質問例 ＜現在の状況・変化点＞		
〔現在の症状・問題点・基本情報〕	発現時期・発現事象	事象	どんな症状か、きっかけ、徐々に/急に、口に入れるか、吐き出しの有無	
	全身状態	時期		症状がみられるようになった時期（食べない、ムセるなど）
		体調		倦怠感、血圧・血圧の変動、発熱の有無、咳や痰の有無・量、感冒症状
		吐き気		吐き気・嘔吐、胸焼け、胃部不快
		疼痛		痛み場所、痛みの程度、いつからの痛みか
		痺れ		しびれの有無、しびれの場所
		体力		疲れやすさなど
		幻覚		めまいの有無
		排泄		便通の有無（最終排便）、排泄状態（便秘、下痢）、排尿量・状態
	受診	睡眠		睡眠状況、睡眠状況の変化
		その他		麻痺の有無、麻痺のある場所、増強の有無、失調、振戦等の有無
	受診	受診	受診の有無、受診結果	
	診断・検査結果		全身状態：検査データ（血液検査、胃カメラなど）、JCS、バイタル 嚥下の評価：食事の摂取状況、VF/VGEの結果 など	
	服薬状況		薬の種類・量、服用薬の変更、服薬忘れの有無	
食事以外の変化点		動作・発音・表情の変化、転倒や感覚障害の有無、皮膚の状態、減量希望の有無		
疾患		既往歴の確認（疾患名、発症時期など）		
生活歴		出身地、家族構成、学歴、職業		
サービス		介護度、介護サービス内容、介護サービスの変更		
〔食事状況・本人の状況の確認〕			＜以前の状況＞	＜現在の状況・変化点＞
	飲み込み	ムセ	ムセの有無	ムセの変化（増減）
		飲み込み	飲み込みの状況	飲み込み状況の変化、飲み込みにくくなった
	食事	食事回数		食事回数の変化
		食事量	食事量（1食、1日）、自宅以外での食事状況	食事量の変化、時間による変動の有無
		水分量	水分摂取量（1食、1日）	飲水量の変化
		所要時間		所要時間の変化
		食事内容・形態	食形態、食事内容、調理方法	食べる食材の変化（食べなくなった食材の有無など）
		食事環境	一緒に食べる人、食事設定の有無・遵守の可否	環境の変化
		食事動作（介助方法）	自力摂取の可否、食事介助の有無、食事介助方法	食べ方の変化、介助方法の変化、介助方法に無理はないか
		介助者	介護者、介護者の介護力、協力者・ヘルパーの有無	介助者の変更、介助者の状態の変化
		代替栄養	栄養補助食品、経管栄養の有無	補助栄養・経管栄養量の変更
		食具	食具使用の可否	食具の変更
		姿勢	摂取時の姿勢	姿勢の変化
		食意	食欲の有無、好物の摂取の変化、食欲不振の経緯	食欲の変化
	嗜好	好き嫌いの有無、食べられる食品、食べやすい食材の有無	好きな食べ物は食べるか、食べムラの有無	
	時間帯	食事を摂る時間	時間帯の変更の有無	
	食事準備	買物	買い物に行く人、買い物可否	変化の有無
		調理・準備	調理者、調理方法、メニューの傾向	調理者の変更、味付けの変化
	口腔機能	口腔環境	歯の状態（欠損・むし歯）、義歯の有無・状態、食事時の義歯使用 口・舌の動き、口腔内乾燥・唾液貯留、口腔内残渣	口腔内環境の変化の有無、義歯の使用状況の変化
		口腔衛生	口腔ケアの方法・状況、口臭の有無、舌苔の有無	変化の有無
		咀嚼機能	咀嚼での食べこぼしの状況、咀嚼時間	変化の有無
		味覚		変化の有無
	身体状況	身長	身長	
		体重	体重、体重を計る設備	体重の変化
		利き手		
		視力		視力や視野などの問題の有無
	精神状態		落ち込み・不安や心配事・ストレスの有無、食べることへの恐怖心	落ち込みや不安の変化
	認知機能		認知機能低下の有無、食べ物の認識の可否、覚醒状態	認知機能の変化、食べ物の認識の変化、覚醒状態の変化
	コミュニケーション	声質・声量	声質（かすれるなど）、声量	声質の変化、声量の変化
		会話能力	やり取りの可否、失聴症の有無、構音障害の有無	会話の減少の有無、伝達能力の変化
	生活環境	住環境	自宅内の状況（改修状況）、室内の状況（気温・湿度など）	生活環境の変化の有無
経済状況		生活する上で十分な	経済状況の有無	
生活・活動	家族や関係者	家族・夫婦との関係、近所づきあい・日常的に会う友人の有無	家族・夫婦との関係の変化、対人関係の変化（死別など）	
	生活リズム	日中の過ごし方、昼夜逆転の有無	生活リズムの変化	
生活・活動	活動	活動機会の有無、外出機会の有無、家庭内の役割	活動量の変化、役割の変化の有無	
	趣味	趣味の有無	趣味の変化、生活を楽しくしているか	
ADL	運動	運動の機会の有無	運動機会の変化	
	自立度	自立度	自立度の変化	

【方法】

摂食栄養サポート勉強会の参加者合計1556名（重複あり）に対し無記名式アンケート実施した。

勉強会は、実行委員による打ち合わせを複数回行い、開催日時や演題の決定、内容の構築、すり合わせを行い開催している。周知方法は地域リハビリテーション拠点事業ホームページ、関連団体へのFAX、各団体メーリングリスト等である。

【結果】

参加者は開催団体関係者が多く、その他、老人福祉施設関係者の参加が多かった。勉強会の満足度は5段階評価で平均4以上となっている。

高い評価の内容は、開催方法にかかわらず、動画、画像を多用した講義であったこと、実際の現場の声が聞けたこと、食事作りの工夫や具体的な対応策を知ることができた等があがっていた。

低い評価の内容は、限られた時間の講演の中での内容の深さの問題や、WEB開催後はネット環境や音声の問題、スライドの文字の大きさの見えにくさ、受講に際し事前に資料が欲しい、実際の体験型の勉強会を早く受講したい等があがっていた。





第2回勉強会



第7回
グループワーク後の発表



グループワーク



管理栄養士によるミニレクチャー



酵素を用いた軟菜食の調理実習



コンビニ弁当から嚥下食を調理する



【結論】

アンケートにより勉強会に望むことが明らかとなり、船橋市における摂食栄養に関する課題と介護スタッフやケアワーカーの望む今後の勉強会のあり方が示された。今後も「口から食べることを支援し、人としての尊厳を守り、豊かな人生を過ごしてもらおう」ことを目標に実りのある事業にしていきたいと考える。

本活動を通じ、市民及び市内のリハビリテーション関係者へのリハビリテーションの重要性及び必要性の周知を行い、関係者の育成、医療及び介護の連携の強化を図っていききたいと考えている。

第21回

船橋市摂食栄養サポート勉強会

いつまでも食べ続けられるために
～栄養ケアステーションの取り組みを中心に～

参加費
無料

令和6年2月22日(木)

18時30分～20時00分 Web(zoom)開催

○口腔機能低下症とオーラルフレイル

かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所 歯科医 田代晴基氏

○栄養ケアステーションについて～元浅草での取り組み～

たいとう診療所 管理栄養士 桐谷裕美子氏

○訪問栄養指導の実際 ～船橋での取り組み～

いけだ病院 管理栄養士 下田久美氏

オーラルフレイルの基礎を学び、東京都台東区で話題の栄養ケアステーションを立ち上げた管理栄養士からお話を頂きます。さらに船橋市での訪問栄養指導の実際を学び、今後の連携に活かしましょう！！

【申込方法】 2月18日までに、下記メールアドレスへ必要事項を入力し送信して下さい。

お送りいただいたメールアドレスに、後日当日の資料を返信致します。

ドメイン指定されている方はフィルターの解除をお願いいたします。

【申込用アドレス】 frc-cbr@kiseikai-reha.com

【必要事項】

題名：「第21回摂食栄養サポート勉強会申込み」として下さい。

本文：「氏名、職種、事業所名、本人に連絡がつく電話番号、

質問事項（任意）」を記載して下さい。

【主催】 船橋市（地域リハビリテーション拠点事業）

<お問合せ> 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-519-3

船橋市リハビリセンター 担当 泉水・江尻 TEL:047-468-2001 FAX:047-468-2059



申し込み用 QR コード

ご清聴ありがとうございました。

摂食栄養サポート勉強会



申し込み用 QR コード